2022年公開

映画原作本



原作本を読んでも、 映画を観ても楽しめる 作品ばかりです。





この秋、新たに出会う 作品のひとつとして どうですか?



『余命 10 年 memorial edition』 小坂流加/著(文芸社)

20歳の茉莉は、数万人に一人という不治の病にかかり、余命が10年であることを知る。笑顔でいなければ周りが追いつめられる。何かをはじめても志半ばで諦めなくてはならない。

未来に対する諦めから死への恐怖 は薄れ、淡々とした日々を過ごし ていく。そして、何となくはじめた 趣味に情熱を注ぎ、恋はしないと 心に決める茉莉だった……。 (2022 年3月4日公開済)

『沈黙のパレード』東野圭吾/著(文藝春秋)

突然行方不明になった町の人気娘・佐織が、数年後に遺体となって発見された。容疑者はかつて草薙が担当した少女殺害事件で無罪となった男。だが今回も証拠不十分で釈放されてしまう。さらにその男が、堂々と遺族たちの前に現れたことで、町全体を「憎悪と義憤」の空気が覆う。

かつて、佐織が町中を熱狂させた 秋祭りの季節がやってきた。

パレード当日、復讐劇はいかにして 遂げられたか。

殺害方法は?アリバイトリックは? 超難問に突き当たった草薙は、アメリカ帰りの湯川に助けを求める。 (2022年9月16日公開済)





ティーンズスタッフ:加密列

『ロボット・イン・ザ・ガーデン』

デボラ・インストール/著 松原葉子/訳 (小学館)

AI(人口知能)の開発が進み、家事や仕事に従事するアンドロイドが日々モデルチェンジする、近未来のイギリス南部の村。バリバリ働く妻とは対照的に、仕事も家事もせず親から譲り受けた家で漫然と過ごすべン。ある朝、ベンは自宅の庭で壊れかけのロボットのタングを見つける。

「四角い胴体に四角い顔」という、あまりにもレトロな風体のタング。けれど巷に溢れるアンドロイドにはない「何か」をタングに感じたベンは、彼を直してやるために、作り主を探そうとアメリカに向かう。そこから、中年ダメ男と時代遅れのロボットの珍道中が始まった……。(2022年8月11日公開済)

【 発行】諫早図書館(TEL: 23-4946) 【 協力】諫早図書館ティーンズスタッフ

~中高生むけ図書館だより~

OWL NEWS World 25



ティーンズスタッフ:みーさん

わたしたちのおすすめ本

『キノの旅 I the Beautiful World 』 時雨沢恵一/著 (KADOKAWA)

「世界は美しくなんかない。そしてそれ故に、美しい。」 この本は主人公のキノが相棒のエルメス(しゃべるオートバイ) と一緒に旅をしながらいろいろな国に行き、その国を知り、その 国の人たちと交流をする短編形式の小説です。

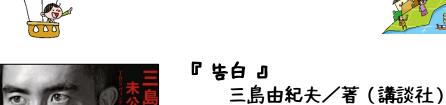
おもしろくもときに切なく、ときにハッとさせられる話が多く、 国や文化について考えさせられます。

コロナ禍でなかなか遠くに行けない今、ぜひこの本を読んで架 空の国へと旅に出てみてはどうでしょうか。



(ティーンズスタッフ:ブレーメン)







約50年前、滅びを自己完結させた昭和の文士の言葉が、ここに蘇る。天才と呼ばれた彼の憂いはどこへ向かっていたのか。

"ハラキリ"の9か月前に収録され、ラジオ放送がお蔵入りとなった彼の「告白」。自伝的エッセイ「太陽と鉄」とともに彼の思考を深く味わえる。半世紀前に日本を案じた言葉は未だ色褪せない。暮秋の三島忌に手に取りたい、現代日本人の魂と国家観を鍛えなおす一冊。

(ティーンズスタッフ:MARUCHAN)

『僕はロボットごしの君に恋をする』 山田悠介/著(河出書房新社)

2060年、3度目のオリンピック開催が迫る東京で、人間型ロボットを使った国家的極秘プロジェクトが進んでいた。プロジェクトメンバーの健は、幼なじみで同僚の陽一郎とともに極秘プロジェクトに関わるのだが、ある時、テロ予告が出される。その場所は、健が思いを寄せる陽一郎の妹、咲の勤める会社だった。咲を守ろうと奮闘する健だが、テロの主犯の核心に迫ったときに明かされる真実とは一。

そう遠くない未来を見ているような気分になり、面白い反面、 色々なことを考えさせられる本です。興味が湧いた方はぜひ、手 に取ってみてください。



(ティーンズスタッフ: 夏夜)





『 ナラタージュ 』 島本理生/著(KADOKAWA)

お願いだから私を壊して、帰れないところまで連れていって 見捨てて、あなたにはそうする義務がある—。

過去になったようで心の奥に熱が残った日々は、一本の電話でまた巡りだす。

大学二年の春。思いを寄せていた、母校の演劇部顧問・葉山 先生から電話がかかってきた。思い出したのは卒業前のある出 来事。後輩の舞台の客演を引き受け母校へ通ううち、泉は葉山 先生への恋を再認識する。そして彼の中にも、ひとしく消せな い熱があることを知り…。曖昧な二人はどこへ行くのか。

「あの日から私はずっと同じ場所にいます」

「本当は君にそばにいてほしかった」

降り続けるしとやかな雨に包まれた、最高純度の恋愛小説。

(ティーンズスタッフ:葉下)